

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1578 号	氏名	田上 幸憲
学位審査委員		主査	井上 剛
		副査	江口 晋
		副査	今村 亮一
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、肺移植における拒絶反応軽減のために、ラット肺移植モデルを用いて脂肪由来間葉系幹細胞 (Adipose-derived Mesenchymal Stromal Cell : ADMSC) 投与時期の違いによる免疫抑制効果を比較・検証したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 Lewis ラットから ADMSC を作成し、以下の実験に用いた。1. ADMSC による免疫抑制能評価のための混合リンパ球反応アッセイ (Mixed Lymphocyte Reaction : MLR) (接触法、非接触法)。2. 量子ドットで標識した ADMSC を用いたラット生体内における ADMSC の局在評価。3. ラット肺移植モデルを用いた ADMSC の投与時期による拒絶反応抑制効果の評価。これら一連の手法は、本研究目的を明らかにする上で妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、MLR において、ADMSC を追加して共培養した場合にのみ T 細胞の増殖が抑制され、ADMSC の免疫抑制効果が確認された。肺移植モデルでは、腎臓や心臓移植とは異なり、移植後に投与された ADMSC が移植肺に蓄積し、移植肺内の Treg を有意に増加させることで、比較群の中で最大の免疫抑制効果を発揮した。これらの成果は、肺移植における MSC 投与という細胞治療を組み合わせた新しい免疫抑制プロトコル確立のための重要な知見となった。</p> <p>以上のように本論文は肺移植研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			